

大船渡市大規模林野火災で被災したスギ及びアカマツ人工林の状況

1 はじめに

令和7年2月、大船渡市で大規模林野火災が発生し、約3370haの森林が被害を受けました。被災した森林の内訳は、スギ人工林が約45%で最も割合が高く、次に広葉樹天然林が約36%、アカマツ人工林が約7%を占めました。

被害を受けた森林の再生については、大船渡市林地再生対策協議会が令和8年3月に「令和7年大船渡市大規模林野火災等に係る森林再生計画」を策定しました。その計画では、被害が大きい人工林は、森林災害復旧事業を最大限活用し、被災木の伐採や植林などを優先的に進めるとされました。また、天然林は天然更新による自然再生を基本とすると考えました。

当センターでは、森林の再生を支援するため、被災したスギ及びアカマツ人工林の状況について、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所東北支所と共同で調査を行いましたので紹介します。

2 調査場所と内容

調査した場所は、大船渡市三陸町綾里字田浜下地内の大船渡市有林です。調査の概要を表1に示しました。スギ人工林では半径8mの円形区を4か所、アカマツ人工林では25m×20mの方形区を2か所設定し、その中や周辺のスギ及びアカマツの樹高と胸高直径、最大焼損高を測定しました。

さらに、スギやアカマツの緑色の葉の着葉程度を、枯死の「0」から、緑色の葉が調査木全体の100%を占める「5」までの6段階に分けた健全度について、目視で判定しました。調査はスギ人工林では令和7年10月、令和8年5月に行いました。アカマツ人工林では、令和7年9月に調査した後、つちくらげ病という林野火災跡地などでアカマツやカラマツなどを枯死させる病原菌の子実体を確認されたため、同年10月にも健全度判定を行い、さらに翌年5月にも調査を行いました。

表1 被災したスギ及びアカマツ人工林の調査概要

林種	調査区	調査箇所	調査項目	調査実施年月		
				令和7年9月	令和7年10月	令和8年5月
スギ人工林	半径8m円形 (0.02ha)	4	樹高・胸高直径・ 最大焼損高測定		○	
			健全度判定*		○	○
アカマツ人工林	25m×20m方形 (0.05ha)	2	樹高・胸高直径・ 最大焼損高測定	○		
			健全度判定*	○	○	○

※ 健全度 0：枯死、1：緑色の葉の着葉程度が調査木全体の0～25%、2：同25～50%、3：同50～75%、4：同75～100%、5：同100% ただし、令和7年の健全度判定は、健全度4と同5を区別していない

表2 調査したスギ及びアカマツ人工林の概況

調査地No.	スギ 1	スギ 2	スギ 3	スギ 4	アカマツ 1	アカマツ 2
林齢(年生)*1	53	26	64	61	52	65
被害区分*2	大	大	大	大	大	大
斜面傾斜(°)	12	25	27	27	32	20
斜面方位	S2°W	N45°W	N70°E	S26°E	S30°W	S4°W
成立本数密度(本/ha)	500	1850	600	500	640	620
平均樹高(m)	26.3	8.4	21.6	30.1	16.9	20.8
平均胸高直径(cm)	53.1	13.0	39.7	55.4	27.9	38.9
平均最大焼損高(cm)	168.3	72.7	315.1	273.9	261.2	273.3

※1 令和7年4月1日現在

※2 第3回大船渡市林地再生対策協議会資料による



写真1 調査したスギ人工林（スギ3）

※ 幹の黒く見える部分が焼損痕

3 スギ人工林の状況

調査したスギ人工林4か所の被害区分は全て「大」（高さ2m以上の焼損）でしたが、平均最大焼損高は約73〜315cmで、ある程度の幅がありました（表2、写真1）。

令和7年10月と令和8年5月の健全度を図1に示しました。スギ2や同3では、令和8年5月に枯死の「0」の割合が増加し、健全度が低くなっていました。その一方で、スギ1や同4では、健全度が高くなっており、調査地によって傾向が異なっていました。

4 アカマツ人工林の状況

調査したアカマツ人工林2か所の被害区分はスギ人工林と同様、全て「大」で、平均最大焼損高は約261〜273cmでした（表2、写真2）。令和7年9月及び10月、令和8年5月の健全度を図2に示しました。両調査地とも、つちくらげ病原菌の子実体が確認された令和7年10月に健全度の低下がみられ、令和8年5月には、枯死の「0」の割合が約2〜3割を占めていました。

5 今後の森林再生に向けて

今回調査したスギ人工林は、一部で約1割程度の枯死木が発生していたものの、現時点では概ね健全な状態で推移していると考えられました。しかしながら、現時点で、概ね健全であったとしても、長期間被災したスギ人工林を放置すると、焼けた幹が腐って、風などで倒れやすくなり、伐倒が難しくなったりする恐れが釜石市尾崎半島の林野火災で指摘されています。今後の森林管理を考えると、被災したスギ人工林は、放置せず伐採し、被災した森林を更

新することが重要であると考えます。

一方で、今回調査したアカマツ人工林は、スギ人工林より枯死木が多く発生していました。これは、林野火災の影響とともに、つちくらげ病と松くい虫の被害を受けたためと考えられます。今後も、つちくらげ病や松くい虫の被害は継続すると考えられますので、アカマツ人工林は早く伐採する必要があると考えます。ただし、伐採跡にアカマツやカラマツを植林する場合は、つちくらげ病が発生する可能性がありますので、注意が必要です。

今回調査した人工林は合計6か所だけです。被災した森林全体の傾向とは言えない恐れがありますが、今後は調査地を増やしながら、継続して調査を行います。

最後に、市有林をお借りした大船渡市と、一緒に調査を行った岩手県沿岸広域振興局大船渡農林振興センターに御礼申し上げます。

岩手県林業技術センター研究部
 上席専門研究員 新井 隆介

TEL 019 (697) 1536
 FAX 019 (697) 1410

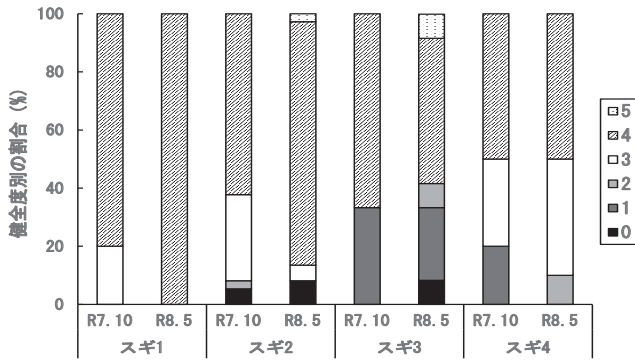


図1 調査したスギ人工林の健全度の推移

※ 健全度は表1中の注釈を参照のこと。



写真2 調査したアカマツ人工林（アカマツ2）

※ 幹の黒く見える部分が焼損痕

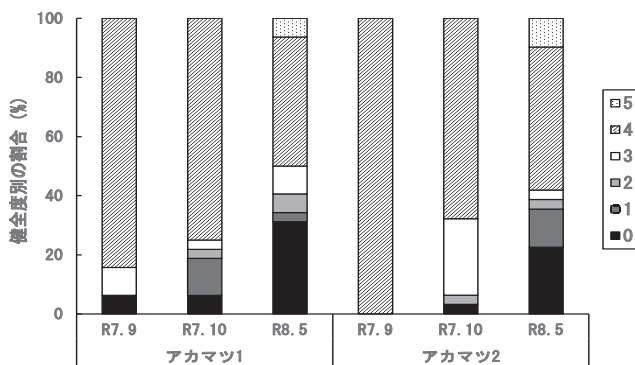


図2 調査したアカマツ人工林の健全度の推移

※ 健全度は表1中の注釈を参照のこと。